



## 【東北関東大震災、原発危機で困難な日本を覚えて/第4週】

神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだっても、その水かさが増して山々が揺れ動いても。

詩篇 46 章 1～3 節

- この詩篇はユダのヒゼキヤ王がアッシリア帝国の侵略の危機に瀕した時に、神に拠り頼んだ結果、助け出された時に書かれたものと言われています。今回の震災で多くの教会で読まれ、多くのクリスチャンたちがこれらの言葉によって励ましを受けたと聞いています。
- この地上は「樂園」ではありません。天災、人災が起こります。しかし大きな迫害や苦しみが襲う時や、今まで安心して住んでいた地が揺れ動き、大きく形を変えてしまうようなことがあっても、神を知る者たちは、避ける場所を知っているのです。それは神御自身です。世の中の人には目に見えない神など何の助けになるのか、と言うかも知れませんが、真のクリスチャンは、神の身許ほど安全な場所はないことを知っている、あるいは知る過程に入られているのです。
- 今回、NY、CTにいる私たちはこの大きな震災を免れました。両方経験された方でも直接何もかも失う経験はなさいませんでしたね。しかし、次、は自分かも知れません。そのような中で私たちはどのような心の準備をすればいいのでしょうか。それはしっかりと神様に結びつく、ということなのではないでしょうか。 牧師

### 【 祈り 】

- 全知全能の主なる神、天の大祭司主イエスを崇め、感謝しましょう
- 被災者・被災地の方々の物質的、霊的必要的のために
- 原子力発電所の危機回避の成功、そのために働く人々のために
- 首相、行政・関係省庁の人々、日本のビジネス・産業の再興のために
- 被災地の教会の復興、原発で避難生活をしている福島の方々のために
- 日本の教会が一致して地の塩、世の光として用いられるように
- 日本人の心が、不動であり愛の神様を見出し、霊的に覚醒するよう
- 私たちと直接関わりがある人々を覚えましょう
- 私たちもイエスの手足となり、できることをする決意をしましょう

## 【礼拝メッセージの新しい3年サイクルが始ります！】

● グリニッチ教会の礼拝ではCS成長センター発行の「成長」という教会学校の教案誌のカレンダーに則って聖書全体を三年のサイクルで学んでいます。2011年4月は新しいサイクルが始る月です。礼拝メッセージは当面、前段で子供向けPOWERPOINT紙芝居、後段で大人に対するポイントをお話して行きたいと思えます。4月から6月第二まで牧師がメッセージをしますが、牧師一時帰国以降のカリキュラムに関しては、黒田先生や来てくださる先生方との相談になりますのでまだ未定です。



● 聖書は「幼子が安全に遊べるほど十分に浅く、神学者が研究しても研究し尽くせないほど深い書物」です。一生かけて学び続けることができるように神御自身が御自身の聖霊を通し、長い年月にわたり多くの著者達を通して著した書物です。そして神は私たちにこれを読み覚え、実行するようになることを願っておられます。なぜなら、神の言葉にこそ、人間の幸せがかかっているからです。

● 聖書をただ闇雲に、行き当たりばったりに読んでも大きな益になりません。そこには「主よ、お語りください。しもべは聞いております」という少年サムエルの従順と謙虚さがありません。きっと読んでもすぐに忘れてしまうでしょう。私たちは襟を正し、きちんと聖書に向き合い、神からのメッセージを聞く姿勢を持って行きましょう。

● これから礼拝で取り上げる一つ一つのお話しは、「頭の中の目次作り」をしていると考えてください。山脈で言えばちょうど、連なっている山々のそれぞれの山頂です。その山頂、すなわち目次の項目を覚え、全体像をつかんでいく中で、今度は中腹にある具体的な教えに取り組み、さらに生涯かけて深い谷間にある深い真理を徐々に自分の物としていくのだ、とイメージされるとよいでしょう。

● それでは共に御言葉の旅に出発しましょう。これから5月1日まではイースターのシーズンですので、そのイエスの十字架と復活の出来事にまつわるお話しを見て参ります。 以上■

【以下、五月1日までのカリキュラムです】-----

4/03	罪人を招くために	マタイ9：9-13, 1テモテ1：12-17	暗唱マタイ9：13
4/10	主イエスの祈り	ルカ22：39-53	暗唱ルカ22：42
4/17	十字架	ルカ23：32-56	暗唱1テモテ1：15
4/24	復活の朝（ファミリーイースター）	ルカ24：1-12	
5/01	エマオへの道	ルカ24：13-35	暗唱ルカ24：31